

【参議院国交委】足立敏之議員「地域の守り手の処遇改善を」

足立敏之参議院議員（自民党）は26日の参院国土交通委員会で質問に立ち、地域に住んで守る「地域の守り手」として災害時にも頑張っている建設業者の適正な評価と処遇改善を図る必要性を訴えた。

9月には台風10号の復旧作業のため待機していた宮崎県椎葉村の地域建設業者の事務所と住宅が土石流の直撃を受けて被災する痛ましい事案が起きた。足立議員は災害による建設業の被災に対する支援措置の検討状況を国土交通省に質問した。

不動産・建設経済局の青木由行局長は、災害待機時等の作業員の安全確保を図るため、待機拠点は、あらかじめ市町村が作成するハザードマップで災害の危険性を確認し、作業員等へ周知することや、災害の危険が差し迫った際に、市町村から発表される避難情報等に注意して作業員等の安全確保を最優先に行動することを求める通知を業界団体や公共発注者宛てに出したことを説明。

さらに今後は「災害対応で被害に遭われた場合にしっかりと補償が受けられるよう、今回の事案を検証し、労災適用を確実にするための留意事項を整理して周知を行い、補償をより充実・確保するための方策について、災害協定の見直しも含めて検討するなど『地域の守り手』として最前線で災害対応に当たる地元企業の皆さまがより安心して業務に従事できるよう取り組む」と答弁した。

また本年度で終了する「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に関して、足立議員は全国の自治体から5か年に延長し中長期的に着手するとともに、老朽化対策や交通ネットワークの整備など事業メニューの充実を図る要望が多いことを紹介。今後のさらなる取り組みを求めた。

赤羽一嘉大臣は、中長期的な予算確保が必要との認識を示した上で「国民の命と国土を守るために全力を尽くしていきたい」との姿勢を見せた。



地域建設業者の評価と処遇改善を訴える足立議員